midorinodam.jp

NPO法人
緑のダム
北相模

April 2015 No.393-394

４月号の１枚：圧巻！材の谷渡り

緑のダム同窓会から見えるもの

森林現場の実情を理解せずして森林・林業を語る事はできない

相模原市の麻布大学を核とする「学生連合：Forest Nova ☆」は、東京・千葉・埼玉など各地大学から、森林の保全・再生のために月２回「NPO法人緑のダム北相模」の“相模湖嵐山の森、小原本陣の森”で活動してくれています。このグループは3月末に、過去に巣立って行った卒業生も交えて、会事務局のある我が家で「同窓会」を行っています。卒業生の多くが森林・林業に関わる企業に就職していますが、嬉しいのは卒業したOB・OGも在学生も年々、逞しくなって行く姿を見せてくれる事です。

今年は、就職4年目のＮさんが新婚の夫人を伴って、共々に我が国の森林・林業の将来を担って立つ気概を見せてくれました。また、Nさんと同期のSさんは自分の仕事場の事だけでなく、我が国の林業行政の有るべき全体像を熱く語ってくれました。嬉しいですね～。一方、OB・OGが、社会人になってからの「ものの見方」を後輩に伝え、彼らの質問に答えている姿も見かけます。在校生の中には森林生態系に強い関心を示す学生もいますが「森林・林業基本法」では森林の公益性・多様性が基本理念であることから、経団連でも「自然保護協議会」を以て生物多様性の在り方を最重要課題として取り上げています。

学校で理論を学びつつ現場で実情を知ることは、将来学者になっても、政治・経済その他の企業で働いても「実」のある成果を得ることができるでしょう。最近、私が月一回出ている勉強会で、同席の林業家や建築家から就活学生を紹介して欲しいと言われることが多くなりました。学生たちが「森林現場」や「同窓会」等で切磋琢磨している成果だと、とても嬉しく感じています。いずれにしろ、森林現場の実情を理解せずして森林・林業を語る事はできないという事を心に刻んでおきたいと思っています。

石村　黄仁（本会、代表理事）

今月の定例活動

2015.04

4月 5日（第一日曜日）：
小原本陣の森/森林整備、担い手育成、技術向上。
持続的森林経営：弁当持参。参加費：４００円

4月19日（第三日曜日）：
相模湖・嵐山の森/里山交流、多様な森林活動。
主食・自分のお椀・箸・飲料水は持参。参加費：４００円

FSC
www.fsc.org
FSC® C006376
責任ある森林管理のマーク

[定例活動]小原本陣の森

3月1日（第一日曜日）

寒さもやっと少しは緩んできたようで、森林の整備の活動も活発になっているのではないでしょうか。３月１日、緑のダムの石村さん、川田さん、小林さんの３名とForest Nova☆の7名で小原の入山に入り、ハイキングコースで道を示すための道標づくりを行いました。小雨の中行われた道標づくりは、ノミや彫刻刀を用いて文字を浮き彫りにする３班とチェーンソーを用いて道標に使用する丸太の加工をする班の合計４班に分かれて活動しました。

道標づくりは、先ず始めに斜めに切られた丸太の断面に行き先を記入します。その際には、ハイキングコースを登るときにどういう風に見えた場合が見え易いのか検討し合って掘る位置を選定しました。その後は記入した文字に沿って、ノミや彫刻刀を用いて掘っていきます。その際には文字に対して外側を掘って文字が浮いて見えるように掘り進んでいきます。一部途中の道標もありますが、無事３本の道標を掘り終えることができました。チェーンソーを用いた丸太の加工をする班では、私が先日チェーンソー免許の講習を取り終えたということもあったので私をリーダーに、既に昨年の夏にチェーンソー免許を取っている山田和彦と一緒に加工を進めていく予定でしたが、元々取り替える予定だったチェーンソーの刃の部分（ソーチェーン）のサイズが一回り小さく、取り替えて作業を行うことができませんでした。そこで棒状のやすりを用いてやすりがけを行うことにしました。チェーンソーに行うやすりがけは非常に注意する点があり、削る角度・回数を一定に揃え、身体の姿勢にも気にしなければいけません。また今回は棒状のやすりによるやすりがけしか行うことが出来なかったので、平らなやすりによるソーチェーンのデプスゲージという部分の高さを調整することができず、十分にやすりがけを行うことができませんでした。そのため来月以降はマニュアルにあった道具・行程でのチェーンソーの目立てを行いたいと思います。

毎月２回の森林整備活動の中で道具を使用する活動は限られています。ですが、その際に道具を手入れしないと次にその道具を使用したいという時に十分な活用ができなくなってしまいます。また十分な管理ができていない道具を使用すると利用者にも危険が及びます。日々の活動後の道具の管理から活動内のリスクを抑えていきたいと思います。

釜谷　優太（Forest Nova）

[定例活動]相模湖嵐山の森

3月15日（第三日曜日）

空はやや曇り気味。だが、木々の芽はほころび始め、カンゾウの若葉が両腕をあげたようにあちらこちらで万歳をしている。空気はすっかり春のものだ。参加５８名。

今日は一大イベントが控えている。森林整備班による材の谷渡しだ。メンバーも朝礼前から気合充分。果たしてどうなるか。ところで「谷渡し」って何？　間伐した材をロープに吊るして谷を渡すこと４０m。いわゆるケーブル方式の作業である。スリングやチルホールなど基地にある資材をフルに活用。うまくいけば仮置き場予定地のすぐそばまで間伐材がいとも簡単に運ばれことになる。頭脳派会員・川田さんのアイデアだ。午前中は下準備にほとんどの時間を割かれてしまったが、午後への期待が否応にも高まっていく。

フォレストノバは卒業式と重なったため参加は少ないが、ＯＢの二藤君、瀬戸君が久々に顔を見せてくれている。お花畑班には生命の森宣言東京からの女性４名が加わり、草とりに余念がない。高井戸中は総勢２７名で間伐と玉切り。

お昼休みには井伊さんの詩吟が披露される。梅の花咲くも下で詠じた「寒梅」と「南相馬小高駅頭に感有り」には東日本大震災とそれに伴う原発事故に見舞われた人々への思いが込められていた。井伊さんは南波相馬市にこれまで１０回、復興ボラ

ンティアとして赴いているという。
さて、午後はいよいよ谷渡しの本番。午前中、ミカンの支柱立てや剪定した梅の枝の片づけをしていたお花畑班のメンバーも加わって賑やか。木工班の長谷川大工さんまでもがしばし仕事の手を休め、様子を伺っている。興味津々といった表情だ。

作業は思いのほか順調に進む。谷を隔てた両斜面にそれぞれ数名が配置された。直径２５ｃｍほどもある丸太がゆっくりゆっくり谷を渡っていく様はまさに壮観。この日、谷を渡った材は計２０本と、川田さんの計画は見事成功したようである。めでたし、めでたし。
終礼後、カンゾウを摘んでおみやげに持っていく会員の姿があった。カンゾウはさっと茹でてお浸しや酢味噌あえにするとシャキッとした食感が美味な山菜である。私も袋いっぱい詰め込む。摘みながらふと横を見るとアオイスミレの花が咲いていた。春を満喫しながら充実した作業風景を見ることのできた一日であった。

内野　郁夫（本会理事）

上左：詩吟を披露する、上中：ユズのための杭打ち
上右：高井戸中の間伐、下左：ForestNovaの間伐
下右：柱材の準備が進む

[報告１]
上九沢デイサービスセンター木工教室

春の訪れが聞こえてくる今日この頃、皆様におかれましてはいかがおすごしでしょうか。

さて、3月6日に橋本の市営上九沢団地にあります相模原市立上九沢デイサービスセンターにて木工教室を行いました。相模原市立上九沢デイサービスセンターには、主に20歳～60歳位の身体障がい者の方が利用されている施設で、一人でお風呂に入れない、一人でご飯が食べられない等という方が利用なさっています。

なぜこのような場所で木工教室を行ったかというと、小原宿本陣祭の時に上九沢デイサービスセンターの富永さんからこの木工を脳トレ・レクの時間にやってくれないか？と言われたのがきっかけです。そこから実際に上九沢デイサービスセンターを見学して、打ち合わせの結果オブジェを作ることに決定し、実際にオブジェを作ってみるとどのようになるのかという様子を知るために、上九沢デイサービスセンターでリハーサルを行いました。そしてここでの木工教室は、利用者さんの気が向いたときに来ていただけるブースのような形でやることに決まり、当日へ向けて準備をしました。

木工教室当日は午前午後共にオブジェ作りを行いました。午前中の参加人数は利用者の方が6人ほど、施設の方が2人参加していただけました。午前中の様子は利用者の方や施設の方の色々な話を聞いたり、こちらの話をしたりしてゆったりとした木工体験が出来ました。午後の参加人数は午前中の参加人数よりは少なく利用者の方が4人ほど、施設の方が3人参加していただけました。午後は予定より参加人数が少なく時間も余ってしまったため、空き時間はForest Nova☆の中で色々な木工作品を作りました。

今回は対象が身体障がい者という事もあり、Forest Nova☆のことがあまり伝わらない中での木工教室で不安でしたが、実際に話してみれば利用者の方全員とはいきませんでしたがこちらのことも伝わり、利用者の方からも木工について色々教えてもらうことが出来、その不安も消え楽しく木工今日教室を行う事が出来ました。この形も私たちの理念「人と森との共助共生社会」の実現に必要なことだと感じています。

櫻井　友樹（Forest Nova）

[報告２]
積み木イベント報告

３月２８日、２９日と「絵本あそびでのびのび製作　ひよこ工房」さんのイベントに積み木の貸し出しを行いました。イベントの様子が届きましたのでご報告します。

この度は3000個の積み木を貸与いただきありがとうございました。当団体は主に0-3才の未就園児とその保護者を対象に活動しており、『親子で同じものを見て、感じて、楽しむ』ことを目的としています。今回はお借りした積み木を使用し、どの親子も大変楽しく充実した時間を過ごすことができ嬉しく思っております。

積み木3000個を箱から出したときの歓声。大人も子どもも大興奮の量でした。各々親子で自由に形を作って遊びました。高く積みあげる子ども、横にどんどんつなげていく子ども。お城、船、怪獣など様々なモノを作ったり、と子どもの発想力、創造力、そして集中力は目を見張るものがありました。また土曜日開催ということもあり父親の参加も多かったのですが、父親自身が集中してなにかを作る姿も多く見ることができました。自分の親が自分と同じもので真剣に遊んでいる姿を見ることができたことは子どもにとって思い出に残る非常に良い経験になったと思います。

積み木というのは子どもにとって魅力的な玩具の１つです。シンプルな形が創造力を刺激します。今回、NPO法人北相模様に3000個の積み木をお借りして、家ではできないダイナミックな遊びが展開できより一層子どもたちが創造力を駆使し様々なモノを作り出す環境を与えることができたこと、そして当団体の目的『親子で同じものを見て、感じて、楽しむ』ことができ、心より感謝しております。この度は誠にありがとうございました。

[報告３]
公益社団法人ゴルフ緑化促進会と連携します

今回、公益社団法人ゴルフ緑化促進会と連携して、「木を植えるゴルファー」という出前授業を準備しています。ゴルフ緑化促進会は、「ゴルファー、ゴルフ場、ゴルフ関連事業者並びにゴルフ関連団体との協力連携により、国民スポーツとしてのゴルフの健全な発展を通じて、国民生活をとりまく環境の緑化推進及び自然環境の保全に寄与する（同会ホームページより引用）」という目標をもっており、緑のダム北相模としても同じ森林保全の活動と重なる部分があります。ゴルフをされる方ですと、ゴルフ場でプレーしたときに緑化のための寄付として寄付をされたことがある方もいらっしゃるかと思います。これらの寄付金で活動しているのがゴルフ緑化促進会だそうです。このゴルフ緑化促進会緑化委員長である桜井尚武先生のご推薦で、緑化委員として活動することになりました。昨年度までの勤務先でゴルフの指導を行っていた縁もあり、ゴルフと環境をテーマに出前授業を計画しています。

ゴルフ場というと、森林伐採、農薬、地下水の汚染といったイメージをもつ方が多いと思います。一方で、都市部に近いゴルフ場では「緑地」として残され、里山としての機能が生きていると言われますし、「環境に配慮した」ゴルフ場の取り組みも始まっているということで、これらのことを総合的に理解したうえで、ゴルフを行える人材を育成しようというのがこの出前授業のねらいです。大きな目標としては、「ゴルファーが育てる森」に取り組みたいと思います。

そのためには実際に森林保全に取り組む本会、ゴルフ緑化促進会、環境教育に取り組んでいるスタッフと関わりがあるゴルフ練習場とそこに通う子どもたちがそろって初めて、活動が始まります。まずは年内に実際に授業を行い、その様子をご報告の予定です。

宮村　連理（本会、理事）

[連載１]
相模湖・若者の森づくりから

3月20日(金)にesriジャパン本社にお伺いしました。講師は前川さん、参加は本会から川田さん、小林さん、治田さん、宮村さんで、現在取り組んでいるアプリケーションでの課題や新たに「マップジャーナル」を教えて頂きました。

現在GISでこれまで間伐した木を一度に見れるという間伐一覧を作成しています。その際にGISデータ、位置情報や写真につけたコメント、ピンの色などをCSV形式というファイルに書き出すことができます。間伐一覧を作成しているときにそのCSV形式のファイルが文字化けてしまうという課題が発生しました。そこで今回お伺いし、課題だったCSV形式の文字化けについては１度文字コードを変えて編集し、再び文字コードを戻すことで、文字化けは起こらないようになりました。

また、活動時に撮っているphotosphereが今まで地図にいれられなかったのですが、今回新たに教えていただいたマップジャーナルを使うことで、今までいれられなかったphotosphereや複数の地図や画像、動画や説明が１つにまとめられるようになりました。今後はマップジャーナルも活用していき、間伐一覧のみならず毎月の活動などにも利用していきたいです。

マップジャーナルは４月の嵐山定例から公開します。ぜひご期待ください。これらの最新情報は本会ウェブページやFacebookでお知らせします。

木村　縁（本会、会員）

【事務局からお知らせ】

相模原市わかば祭りに参加します

平成２７年度は例年の桜まつりではなく、若葉まつりとして次の日程で行われます。出展内容は例年とほぼ同じですが、相模湖鉄道の出展はありません。

日時：
5月9日（土）午後1時～5時
5月10日（日）午前10時～午後5時
場所：
市役所脇の駐車場２F

会費の納入をお願いします

平成２７年度の会費の納入をお願いします。本ニュースレターを郵送させていただいている方には振り込み用紙を同封させていただいております。それ以外の方は以下の要領にて会費の納入をお願いいたします。

参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前集合してください。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食；自分の食器(お椀・お箸)

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

会員コーナー

●会員のコーナーでは、皆さんの自由なご意見やご提案をお願いいたします。下記の専用メールアドレスか、事務局FAXまでご連絡ください。また、こちらのコーナーへの投稿や写真の提供もお待ちしております。

●通帳からですと振り込み手数料が掛かりません。
　領収書はゆうちょ銀行等の発行する領収書をご利用下さい。
　また、新規入会の方は、住所、電話番号を事務局にお知らせください。
　振込の際は局の振込用紙に記号、番号を記載し、振込者の情報を記入して、機械操作にてお振り込みいただけると助かります。

世田谷郵便局　（記号）10000-（番号）65791651

NPO法人
緑のダム北相模

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模
事務局：154-0023　東京都世田谷区若林３－３５－９
発行人：NPO緑のダム北相模　事務局 Tel&Fax　03－3411－1636
ＵＲＬ：http//www.midorinodam.jp
E-mail：info●midorinodam.jp　●を＠に変更して使用してください
corner●midorinodam.jp　会員コーナー専用アドレス

急がず、無理せず、楽しく、休まず、
ボチボチと・・。
そして、沢山の参加で森は、良くなる。
（台風の日は勉強会開催。１６年間、
一日も休まず“継続は力”。）

協働団体：セブン-イレブン記念財団、相模原市（市民協働推進課）、
東海大学付属望星高等学校、生命の森宣言・東京
支援団体：WWF JAPAN、イオン財団、市民社会チャレンジ基金、
神奈川県建具協同組合、JFEメカニカル、東急コミュニティ、
マルモ出版